

Title	ウチの図書館お宝紹介! 第214回 北陸先端科学技術大学院大学附属図書館 故きを温ねて新しきを知るー北陸先端科学技術大学院大学附属図書館貴重図書室の紹介ー
Author(s)	梶本, 佳絵
Citation	図書館雑誌, 115(9): 596-597
Issue Date	2021-09
Type	Journal Article
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/17586">http://hdl.handle.net/10119/17586</a>
Rights	梶本佳絵."ウチの図書館お宝紹介! 第214回 北陸先端科学技術大学院大学附属図書館 故きを温ねて新しきを知るー北陸先端科学技術大学院大学附属図書館貴重図書室の紹介ー".図書館雑誌.Vol.115,No.9,(2021.9),pp.596-597.ここに掲載した著作物の利用に関する注意:本著作物の著作権は日本図書館協会に帰属します。本著作物は著作権者である日本図書館協会の許可のもとに掲載するものです。
Description	



# お宝紹介! 第214回 北陸先端科学技術大学院大学 附属図書館

ふる たず  
**故きを温ねて新しきを知る**  
—北陸先端科学技術大学院大学附属図書館  
貴重図書室の紹介—

梶本佳絵

## 1. JAISTと貴重図書室

石川県の白山山系に連なる丘陵地に、そびえ立つ青いビル群があります。不夜城のごとく一晩中明かりの消えないそのビル群が、今回紹介の機会をいただきました当館のある北陸先端科学技術大学院大学（略称：JAIST）です。

JAISTは学部のない大学院のみの大学です。独自のキャンパスと教育研究組織をもつ日本で最初の国立大学院大学として、1990年に設立されました。1996年4月に開館した附属図書館は、蔵書冊数が約15万6000冊、専任職員が8名の比較的小さな大学図書館ですが、大学の24時間の研究環境に合わせて、開館当初から24時間開館していることが大きな特徴です。

当館の2階には貴重図書室という部屋があります。木目を基調とした空間で、中央のガラスケースでは後述する『解体新書』を常設展示しています。また、書棚にはニュートンやダーウィンなどの



▲貴重図書室入口

の自然科学や、デカルトやカントなどの哲学の貴重図書約130タイトルが収められ、美術品棚には地元の工芸作家の方から寄贈された作品が飾られています。この部屋は、偉大な先人の足跡に触れることで新たな知を発見してほしいという慶伊富長（けいい とみなが）初

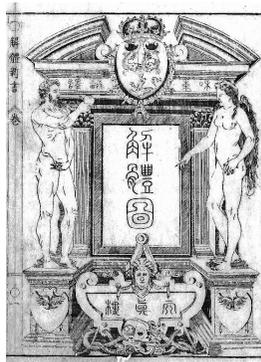
代学長の思いから設置され、入口にはその精神を表す「温故知新」の額が掲げられています。

貴重図書室にはこれまで多くのお客様をお迎えしてきました。今回はお客様をご案内する際に必ず解説する貴重図書3点をご紹介します。

## 2. 貴重図書の紹介

### ●『解体新書』 杉田玄白 [ほか] 訳 (1774)

杉田玄白たちが翻訳した日本初の西洋医学書『解体新書』の初版本です。小学校で必ず習う本であるため知名度は抜群で、近隣の小中学校の子どもたちから企業のトップの方々までまんべんなく人気があり、貴重図書室の目玉となっています。



▲『解体新書』付図表紙

と見比べてその記述の正確さに感銘を受け、翌日からすぐに翻訳に取り掛かったそうです。オランダ語の辞書のない時代、翻訳は困難を極めました。決して諦めず3年半をかけて出版にこぎつけました。そうして彼らが『ターヘル・アナトミア』

お客様から「医学部がないのになぜ『解体新書』があるの?」というご質問を多くいただきますが、その答えにもまた、慶伊初代学長の思いが関わっています。杉田玄白たちは、『解体新書』の原本である解剖学書『ターヘル・アナトミア』を手にした際、実際の解剖

の翻訳に情熱を燃やしたように、本学の学生にも学問に対する熱意を持ってもらいたい、という願いが、慶伊初代学長にはあったそうです。『解体新書』を通じて、杉田玄白たちの探求心、そして慶伊初代学長の熱い思いが、学生たちに伝わってゆくといいなと思っています。

●『新機関(大改革)』フランシス・ベーコン(1620)

17世紀イギリスの哲学者フランシス・ベーコンの著書です。世界史にも出てくる有名な本ではありますが、ご紹介する理由は本の内容ではなく、口絵にあります。

当館の入館ゲートを入ると、右手に大きな壁画のようなものが目に飛び込んできます。これは陶製の板3枚に絵を焼き付けた美術陶板なのですが、そのモチーフが『新機関(大改革)』の口絵なのです。この口絵は、アメリカ大陸がまだ発見されて



▲『新機関』陶板

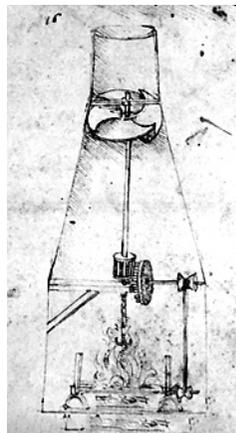
いない時代、“世界の果て”を象徴するヘラクレスの柱から、科学の帆船が未知の世界へ旅立つシーンを描いたものと言われています。この大変な挑戦に臨む帆船の姿が、日本初の独自のキャンパスと教育研究組織をもつ国立大学院大学として始動した本学に重なるという

ことで、この口絵を陶板にしたそうです。陶板は当館のシンボルの一つとして、今日も学問・研究に挑む学生や教員を見守っています。

●『アトランティコ手稿(ファクシミリ版)』レオナルド・ダ・ヴィンチ(1975)

レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿集の一つですが、もちろん原本ではなく、研究等のために原本の図表の色や形、紙質などまでできる限り忠実に複製されたファクシミリ版です。イタリアの国家後援事業として編纂され、998部のみ発行された限定本であり、当館のものにも「251」というシリアルナンバーが記載されています。縦60センチ×横45センチの大型本12冊セットで、その場で自由にご覧いただけるようになっています。

ページを開くと、マシンガンや釘を使わない持



▲『アトランティコ手稿』自動肉焼き機

ち運べる橋など興味深い発明のスケッチが満載ですが、中でもイチオシは「自動肉焼き機」です。お肉を焼く炎の上昇気流で上部のプロペラが回り、それに連動して下に刺したお肉が回転することでまんべんなく焼けるという仕組みだそうです。天才レオナルド・ダ・ヴィンチがなんだか身近に感じられる、とても微笑ましい発明ではないでしょうか。

『アトランティコ手稿』は、その大きさとスケッチの精巧さからくる抜群のインパクトで、見る人を驚かせ、楽しませてくれます。当館にお越しの際はぜひご覧いただきたい本の一つです。

3. 終わりに

貴重図書室には、この3点以外にもご紹介したい本がたくさんあります。現在、年1冊ペースではありますが電子化を進めており、当館のホームページで閲覧できる貴重図書を増やしています。また、毎年10月に行われる本学のイベント「JAISTフェスティバル」では貴重図書の展示を行うこともあり、貴重図書を多くの方々を知ってもらうよい機会となっています。いつの日かご縁があって、これをお読みの皆様にも当館の貴重図書をご覧いただくことができれば幸いです。

■参考文献

- ・大野誠著『ジェントルマンと科学(世界史リブレット34)』(山川出版社, 1998)
- ・Kulmus著; 酒井恒訳編『ターヘル・アナトミアと解体新書』(名古屋大学出版会, 1986)
- ・レオナルド・ダ・ヴィンチ原著; レオナルド3著『アトランティコ手稿』(アトウム, 2006)

■北陸先端科学技術大学院大学附属図書館貴重図書電子化コレクション

<https://www.jaist.ac.jp/library/outline/digital/index.html>  
(かじもと よしえ: 北陸先端科学技術大学院大学附属図書館)  
[NDC10: 090

BSH: 1. 稀書 2. 北陸先端科学技術大学院大学附属図書館]